

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 2024年 2月 29日

事業所名 やわらのココロ放課後等デイサービス

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係が適切である	5		適切である。	広い柔道場を借りて運動を行っています。広く使えるように物品の整理を行っています。
	2 職員の配置数は適切である	5		適切である。	退職者が出たりしたが採用を行い人員の補充を行っている。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	3	2	手すりの設置。	運動を行う柔道場では車いすが入れる幅の入口がある。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5		月二回実施している。	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5		アンケート調査を行っています。	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5		ホームページで公開しています。	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5		他事業所の方や外部研修の際に意見交換し業務改善に取り組んでいます。	第三者による外部評価は行っていない。他の事業所の方の意見を聞き、外部への研修に参加、意見交換し業務改善に取り組んでいます。
8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5		部署内部、外部研修を定期的に参加しています。	部署内、外部の研修を積極的に受けに行きます。	
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5		利用開始前に保護者様からヒアリングした情報に基づいて子どもの状況・課題・ニーズを把握し放課後等デイサービス計画書を作成しています。	今後もヒアリングを行い、課題やニーズに合わせた計画書を作成します。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5		アセスメントツールを作成し使用しています。	
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	5		支援員で相談しながらチームで立案しています。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4	1	楽しく運動が出来るように工夫を行い活動プログラムが固定化しないようにしています。	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	2	3		
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	5		基本は小集団での運動ですが、個々に合わせた運動、難易度で調整し個々のできる運動も取り入れて	
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5		支援員前に職員で打ち合わせを行い役割分担等の確認を行っています。	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5		支援後に滞りを行い次の支援に向けた気づきの共有を行っています。	
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5		連絡帳アプリを活用し、その日の様子や気づいたことを記録しています。	
18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5		必要に応じてモニタリングを行い計画の見直しの必要性を判断しています。		
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	5		ガイドラインの基本活動中心としています。		

関係機関や保護者との連携	20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4	1	日頃関わる機会が多い職員も参画しています。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	3	2	下校時刻や行事などの情報共有を行っています。 トラブルがあった際の連絡先の交換も行っています。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている				医療的ケアが必要な児童が現在通所していません。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	3	2	児童発達支援事業所等と情報共有と相互理解に努めています。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		5	家族様から移行される事を伺った際は、情報共有を行うようにしている。	現状、該当する子どもが通所していません。
	25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	3		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	3	2	機会を作って活動しています。	地域の子供達との交流やイベントを回数を増やして行っていく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	2	3		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5		送迎の際や必要に応じて面談、電話での情報共有や共通理解に努めている。	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	3	2	子どもの現状や保護者様の状況に合わせてできる範囲で行っています。	
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5		契約時に重要事項説明書の説明で行っています。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5		その都度子どもの現状に応じてお話、相談に適切に対応するようにしています。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	5		定期的に事業所の保護者会を開催し、情報共有や連携を支援していきます。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	5		迅速かつ適切に対応しています。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5		活動風景を連絡帳アプリを使用し、写真などを載せるようにしています。	
	35	個人情報に十分注意している	5		個人情報が記載された書類は、鍵付きの棚に保管しています。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5		連絡帳アプリを利用し写真付きでの活動報告を行っています。 送迎時にヒアリングや報告を行っています。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	5	講演会や無料セミナー等を行って招待しています。	

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	4	1	採用時に職員へ周知しています。契約時に保護者様に説明をしています。	定期的にマニュアルの確認を職員全員で確認します。また、張り出しみんなが確認できるように環境を整えます。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5		定期的に行っています。	予定や実施報告をHP等に公表を行います。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5		職員全員が虐待研修を受けています。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	5			身体拘束を行っていません。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5		アレルギーがある際は、かかりつけ医に指示書を頂くように保護者様をお願いしています。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5		ヒヤリハット報告書を作成し保管してスタッフ間で共有しています。	今後も継続して安全に事業運営を行います。